

7月28日（日）北区コミュニケーション・モア7月例会は、「みんなが公平にチャンスが得られる社会を目指して」のテーマで、二神麗子氏にご講演をいただきました。当日は、会員25名、非会員12名の他、音喜多参議院議員、斎藤りえ元区議にご来場いただきました。

みんなが公平にチャンスが得られる社会を目指して

講演の概要



自己紹介…群馬大学の助教をしながら、立命館大学院で手話言語条例や、ろう重複を専門に研究している。

福祉の仕事をはじめたきっかけ…作業所で働く知的障害者の低賃金を知って、「こんな社会ではいけない」と憤慨。特別支援学級の教師になりたかったが、自分がやろうとしていることは「社会福祉」の分野だと教えられた。

「自立」の考え方…靴下をはくのに1時間かかる人でもヘルパーがついていれば、5分ではくことができる。人の手を借りても、残りの55分を有効に使った方がその人の「自立」になると考えている。

障害のある友人との交流から…身体障害者の友人、弱視の友人、ろうの友人との交流を経て、現在の「自分」がある。障害者にやさしい環境を求めて要望を出している。

「複雑すぎるよ！聴覚障害！」…聴覚障害は、聞こえ方やコミュニケーション方法は様々で環境に因るところもあってとても複雑。社会福祉を教える学校でも、聴覚障害に関する授業は少ない。聞こえの程度や手帳についてといった医学的観点から学ぶ程度。「聞こえない」＝「手話ができる」という誤解もある。

聴覚障害者をとりまく制度…「聞こえにくさ」の理解がなかなか進んでいない。聴覚障害の問題は顕在化しないため制度に繋がりにくいが、声をあげていくことが必要。



★閑話休題★

知的障害者が作業所でもらえる賃金は？？

「10年前の話ですが、月曜日から金曜日の朝9時から夕方3時までの5時間、1ヶ月20日働いたとして、賃金はいくらだったと思いますか？」の質問に、参加者から「5万円？」「1万円？」「12万円？」。

講師から「正解は8,000円です」の答えが知らされると、会場内はシーン。「私はこんな社会ではいけないと思いました」の声に、うなずく人が多数見られました。

参加者の感想から ⇒ 色々な障害者の生活の質を高める努力をされていることに感服。我々も中途失聴者の立場から、行政・企業に対して声を上げていこうと思った。二神先生の続編の講演を是非お願いします。